

# 『神こそが日本を真に救う』

～天御中主神示集Ⅲ～

## 【まえがき】

予言というものは實在いたします。例えば、過去の聖書の時代に、預言者イザヤが、亡国の予言、救国の予言、救世主の降臨と十字架の予言等を的中させておられますが、これは歴史的事実なのです。

この預言者イザヤは、近年、アメリカに、眠れる予言者として有名なエドガー・ケイシーとして肉体を持たれました。そして、現実には数々の予言を的中させた実績が、実証的データーとして残っています。

そのエドガー・ケイシーが世紀末頃（予言は時間が外れることがある）に「日本沈没」を予言されているのです。この日本亡国の予言は、果たして、あたるものなののでしょうか。果たして、それは、逃れられないものなののでしょうか。逃れられるものであるとするならば、いかなる方法があるのでしょうか。その秘密は、本書の中で、天御中主神が直々に解明されています。

また、ノストラダムスという予言者もおられました。一九九九年の七月に、「恐怖の大王」が降りてきて、人類が滅亡するかもしれない。その時に、「別

のもの」が現れれば人類は救われる、という予言の解釈を御存知の方も多いでしょう。その秘密も、本書の中で、天御中主神が直々に説明されています。

また、戦後50年の日本に、何故、関西大震災が起こったのかということについても、霊的な見地から説明がなされています。また、日本が敗戦した霊的背景についても語られています。さらには、宇宙人や宇宙存在についての言及もあります。

以上のように、本書の中には、探してみれば、非常に興味深い内容もあります。しかし、その部分だけをとって、本書を、世に出まわっている浅薄な予言解説書等と混同されることは、止めていただきたいのです。

本書の本質は、神から預かった「預言」そのものです。それは、真理そのものの、理法そのものが、限りなく高い叡智として、色どり彩やかに述べられているのであります。

その背後には、愛と慈悲と善念に満ち溢れた天御中主神の優しき眼差しがあられます。まさしく、この神様が、この日本を切に憂い、真に救って下さろうとしておられるのです。私達は、このような偉大な神様が、日本の根本神であられることを喜びましょう。そして、誇りに思いましょう。

天御中主神と共に歩んでゆく所から、新しい時代が始まってゆくのです。そ

の意味で、本書は、救国の預言であり、新生の預言であり、希望の預言であるのです。

どうか、一言一句を深く御熟読下されば幸いです。